

2015年度 鋼構造塑性設計小委員会 第7回 議事録

日 時：2016年2月20日（土） 10:00～17:00

場 所：建築会館 305会議室

出席者：五十嵐規矩夫（主査）、高松隆夫、玉井宏章、金尾伊織、岡崎太一郎、佐藤篤司、向出静司、
岩間和博、石原清孝、聲高裕治（記録） [下線部＝欠席]

資 料

No. 07-01 2015年度鋼構造塑性設計小委員会第6回議事録（案）

No. 07-02 原稿執筆にあたっての共通事項

No. 07-03 「鋼構造塑性設計指針」正誤表

No. 07-04 査読に対する回答および対応 全体（五十嵐）

No. 07-05 査読に対する回答および対応 序・1～3章（玉井）

No. 07-06 査読に対する回答および対応 4章（五十嵐）

No. 07-07 4章 板要素の幅厚比（五十嵐）

No. 07-08 査読に対する回答および対応 5章（金尾）

No. 07-09 5章 梁（金尾）

No. 07-10 査読に対する回答および対応 6章（佐藤）

No. 07-11 6章 柱（佐藤）

No. 07-12-1 査読に対する回答および対応 7章（岡崎）

No. 07-12-2 ブレース座屈写真・図（岡崎）

No. 07-13 査読に対する回答および対応 8章（聲高）

No. 07-14 査読に対する回答および対応 9章（石原）

No. 07-15 査読に対する回答および対応 10章（前半）（聲高）

No. 07-16 査読に対する回答および対応 10章（後半）（向出）

No. 07-17 査読に対する回答および対応 11章（岩間）

No. 07-18 「骨組の崩壊荷重」の名称について（聲高）

審議議題

1. 2015年度第6回議事録の確認

- 資料 No.07-01 に基づき前回議事録が読み上げられ、了承された。

2. 原稿執筆にあたっての注意事項の確認

- 資料 No.07-02 に基づき、原稿執筆にあたっての共通事項が確認された。
 - 2軸曲げに統一する。
 - 階の定義として、RFLは屋上階と示す。
 - 本文（囲み）の冒頭で、等式表現のときは「以下の式により算定する.」、不等式表現のときは「以下の条件を満たすものとする.」と表記を統一する。
 - 設計例で「OK」の表記については、下線をつけず、「・・・」などを前に付記しない。

- 理論的な部分は「骨組」、実務的な部分は「架構」、剛接骨組に限定する場合には「ラーメン」とする。
- 資料 No.07-03 に基づき、2版での正誤表の内容について、3版の執筆時に再確認することが確認された。
- 資料 No.07-18 に基づき、骨組の崩壊荷重の名称について議論した。
 - 黄色本での「保有水平耐力」の意味が本指針の主旨〔崩壊機構形成時の層せん断耐力（層の水平耐力）〕と同様であれば保有水平耐力と呼び、そうでなければ「崩壊機構形成時の層せん断耐力」と呼ぶ。

3. 指針全般に対する査読意見への対応方針の確認

- 資料 No.07-04 に基づき、指針全般に対する査読意見への対応方針が五十嵐主査より説明され、了承された。

4. 1～3章の査読意見への対応方針の確認

- 資料 No.07-05 に基づき、1章～3章に対する査読意見への対応方針を確認した。
 - 小委員会での意見に基づき、査読対応の変更を要する箇所について、聲高から玉井委員へ連絡する。
 - 曲率の記号に κ を用いないで説明する (M_2/M_1 と重複するため)。
 - 3.1 節に全塑性モーメントを算出するための囲みを設ける。3.2 節では、断面ごとの塑性断面係数の算定のために、囲みを設けた方がよい。

5. 4章の査読意見への対応方針の確認

- 資料 No.07-06, 07-07 に基づき、4章板要素に対する査読意見への対応方針が五十嵐主査より説明され、了承された。

6. 5章の査読意見への対応方針の確認

- 資料 No.07-08, 07-09 に基づき、5章梁に対する査読意見への対応方針が金尾委員より説明された。
 - 津田#2：「複曲率曲げのとき」下線部を追加
 - 津田#6：「材軸方向の」を削除
 - 澤本#3：R の定義式をカッコで併記する。

7. 6章の査読意見への対応方針の確認

- 資料 No.07-10, 07-11 に基づき、6章柱に対する査読意見への対応方針が佐藤委員より説明された。
 - $N_E \rightarrow N_0$ に変更し、これに併せて $\lambda_{c,E} \rightarrow \lambda_0$ に変更する。
 - 6.3 節と 6.5 節では、柱の耐力式を等号で表現する。
 - 津田#8：6章では「骨組」とする旨を記載。
 - 津田#18： N_z の求め方を文章で説明する。

- ・ 津田#19：当該文を削除する。
- ・ 津田#20：図 C6.2.2(b)の y 軸の向きを左右反転させる。図 C6.2.2(a)の軸を削除する。
- ・ 津田#26：「H 形断面柱の塑性変形能力として最大耐力の 90%まで耐力が低下した時点の塑性変形倍率を採用し、次式で・・・」と記述する。
- ・ 津田#30～32：査読意見に対してどのような修正を行ったかがわかるように回答書を作成する。元原稿に記載されていた図 C6.3.2 を残す。

8. 7章の査読意見への対応方針の確認

- ・ 資料 No.07-12-1, 07-12-2 に基づき、7章ブレースに対する査読意見への対応方針が岡崎委員より説明された。
 - ・ 澤本#1：座屈長さについては明記せず、写真（資料 No.07-12-2）を掲載する。参考文献が追加されるため、文献番号に注意を要する。
 - ・ 津田#2： N_c の算定式を 7.2 節の囲みから削除し、6章を参照することを解説で述べる。

9. 8章の査読意見への対応方針の確認

- ・ 資料 No.07-13 に基づき、8章接合部に対する査読意見への対応方針が聲高委員より説明された。
 - ・ 津田#3：「フランジ」を削除する。
 - ・ 津田#4：「中空断面壁」→「中空断面の板要素」

10. 9章の査読意見への対応方針の確認

- ・ 資料 No.07-14 に基づき、9章崩壊荷重に対する査読意見への対応方針が石原委員より説明された。
 - ・ 津田#02：「固定した値」→「一定の値」
 - ・ 津田#13：十字架構であり、静定構造物なので Q が定まることを記載する。
 - ・ p.162 図 C9.2.5：梁の左端が元の位置よりも少し下がり、梁の右端が元の位置よりも少し上がるという図に修正して欲しい。

11. 10章の査読意見への対応方針の確認

- ・ 資料 No.07-15 に基づき、10章（前半）に対する査読意見への対応方針が聲高委員より説明され、了承された。
 - ・ 柱梁剛比の記号を 6章と統一するため、 k_b に変更する。
- ・ 資料 No.07-16 に基づき、10章（後半）に対する査読意見への対応方針が向出委員より説明され、了承された。

12. 11章の査読意見への対応方針の確認

- ・ 資料 No.07-17 に基づき、11章に対する査読意見への対応方針が岩間委員より説明された。
 - ・ 津田#8：有効数字を 3 桁以上とする。
 - ・ 津田#12：2版に記載の内容を転記する。

13. その他

- 原稿のとりまとめ等のスケジュール
 - 3月1日（火） 修正原稿の提出締切
 - 修正原稿（PDF）と回答書（Word）をストレージサーバにアップロード.
 - 修正箇所が一目でわかるように朱書きする.
 - 修正原稿のページ数が増えてもページ番号は元のままとする.
 - 3月15日（火）鋼構造運営委員会
 - 再査読完了の旨の報告を受ける（見込み）.
 - 3月末 構造本委員会 査読
 - 査読用の原稿（PDF）を取りまとめ、AIJ事務局（伏見さん）へ郵送.
 - パブリックコメント用の原稿（本文のみ抜き出したもの）を取りまとめる.
 - 6月ごろ 次回小委員会（構造本委員会査読終了後）
- 事務局への確認事項
 - 本委員会の査読期間
 - 講習会の日にち（会場予約等）
 - パブコメ用の原稿の提出方法
 - 図などのファイルの提出方法

以上